

令和 3 年度事業報告
及び

令和 4 年度事業計画について

(飯能市地域公共交通計画の評価等の結果)

令和 4 年 5 月 3 0 日

飯能市地域公共交通対策協議会

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

飯能市地域公共交通計画の評価等結果（令和3年4月～令和4年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本目標1に対する目標指標 年間輸送人員／実車走行キロ ・市内全路線 当初2.03人／kmから 現状維持 ・軸となる路線 当初2.41人／kmから 増加	・施策1 バス路線の維持と継続的な見直し ・施策2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施 ・施策3 バス運行環境の整備 ・施策4 需要に対応したバス路線の見直し	対象となる交通事業者への照会	年間輸送人員／実車走行キロ (令和2年度) ・市内全路線 1.44人／km ・軸となる路線 1.61人／km	概ね計画どおり進んでいる。 ・市と交通事業者が締結している運行継続のための協定に基づく補助金については継続する。 ・観光施策と連携した路線バスの利用促進を推進する。 ・支線バス路線の見直しについて、交通事業者及び地域と連携を密にして進めていく。 ・その他、必要に応じてバスの路線の見直しや運行環境の整備について検討する。	
基本目標2に対する目標指標 路線バスを1年間に1回以上利用した割合 ・当初41% ⇒ 43% (2ポイントの増加)	・施策1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進 ・施策2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施 ・施策3 マイバス意識の醸成 ・施策4 公共交通利用のための利便性の向上	アンケート調査	—	概ね計画どおり進んでいる。 ・コロナ禍での公共交通の現状等について、各種事業及び市広報紙等の媒体を通して引き続き情報発信に努める。 ・支線バス路線を見直すにあたり、新しい路線をバスルートマップに反映する等により市民（利用者）に対してわかりやすく周知をする。 ・高等学校等の生徒等に対する通学費補助について、補助額及び補助対象者を拡大し、路線バスの利用促進を進める。	「達成状況・分析」については、令和4年度のアンケート調査を基に実施する。
基本目標3に対する目標指標 将来（10年後）の外出に不安を感じる人の割合 ・全年代 当初58% ⇒ 58%未満 ・65歳以上 当初84% ⇒ 84%未満	・施策1 「おでかけ」を守るための検討 ・施策2 社会資源の活用の検討	アンケート調査	—	概ね計画どおり進んでいる。 ・飯能市乗合ワゴンについて、実証運行を経て令和4年1月24日から本格運行を開始した。 ・支線バス路線について、令和4年9月1日から新しい形態で実証運行を開始する予定である。 ・社会資源の活用により、公共交通が不十分である地域における移動手段確保の検討をする。	「達成状況・分析」については、令和4年度のアンケート調査を基に実施する。

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」 交通事業者との連携を強化して軸となる路線の維持・改善を図る

【目標指標】年間輸送人員／実車走行キロ

□市内全路線	当初（平成28年度）	：2.03人/km
	現状値（令和2年度）	：1.44人/km（減少）
	目標値（令和4年度）	：現状維持（2.03人/km）
□軸となる区間	当初（平成28年度）	：2.41人/km
	現状値（令和2年度）	：1.61人/km（減少）
	目標値（令和4年度）	：増加（2.41人/kmから）

■施策1 バス路線の維持と継続的な見直し

①交通事業者との連携強化

- ・交通事業者との分科会等を開催し、情報共有、協議を行う。
- ・**国際興業(株)と市が締結している協定のR5以降の内容について協議する。**

②補助金の継続

- ・基幹公共交通となっているバス路線に対して、補助金を継続して交付する。
- ・国庫補助を活用し、コロナ禍の影響を受けた交通事業者への支援策を検討する。

③利用実績のモニタリングによるバス路線の見直し

- ・乗降データ分析の結果をもとに、市内のバス路線の再編の検討を進めていく。

■施策2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

①観光施策と連携した利用促進

- ・観光施策と連携した公共交通の利用促進事業を検討する。

②市内コンテンツを活用した利用促進

- ・メッツアをはじめ市内施設等と連携したMaaS等による利用促進事業を検討する。

③おでかけ促進と連携した利用促進

- ・地域のイベント、商業施設等と連携した利用促進事業を検討する。

■施策3 バス運行環境の整備

①バス停の待合環境の改善

- ・「危険バス停」の状況を調査し、引き続き必要に応じて対策を検討する。

②施設を活用した待合環境の整備

- ・交通結節点の候補場所を検討する。

③飯能駅北口ロータリー周辺の使い方の改善

- ・ロータリー内へのベンチの設置等必要に応じて対策を検討する。

④市内道路網の課題解決に向けた取組の実施

- ・メッツアートーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園のアクセス向上策を検討する。

■施策4 需要に応じたバス路線の見直し

①施設立地等に対応したバス路線の見直し

- ・交通事業者と連携し、必要に応じて既存バス路線の見直しを検討する。

基本目標2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」 利用しやすい公共交通環境をつくり、おでかけを促進する

【目標指標】路線バスを1年間に1回以上利用した割合

現状値（平成29年度）市民アンケート結果	= 41%
目標値（令和4年度）市民アンケート結果	= 43%
	→（2ポイントの増加）

■施策1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

①わかりやすいバス案内看板の設置

- ・バス案内看板のメンテナンスを実施する。

②バスマップの作成・配布

- ・「飯能市バスルートマップ」の掲載内容を見直す。

■施策2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施

①まちなかのおでかけに対するモビリティマネジメント

- ・各種割引サービス等の交通事業者による既存の取組を周知する。

②通勤・通学者等に対するモビリティマネジメント

- ・モビリティマネジメント事業を引き続き実施する。
- ・市内高等学校等の生徒向けに市内路線バスの利用促進に実施を検討する。

■施策3 マイバス意識の醸成

①バスを使ってもらう取組

- ・路線バスを使ったツアー、スタンプラリー等の開催について研究、検討をする。

②バスのことを理解してもらう取組

- ・はんのう生活祭において路線バスを使った利用促進事業、ダイアプラン5市での公共交通啓発事業、市民向けの出前講座等の実施を検討する。

③地域におけるマイバス意識の醸成

- ・既存バス路線の見直しにあたっては地区検討会を開催し、意見交換をする。
- ・**飯能名栗街道乗合バス開通100周年記念事業（仮称）を実施する。**

■施策4 公共交通利用のための利便性の向上

①乗継利便性の向上

- ・サイクル・アンド・バスライド等の候補場所を検討する。

②高等学校等バス通学費補助

- ・改正した要綱に基づき、補助金を支出する。

③利便性向上のための設備投資

- ・自動運転を含めた新モビリティサービスの導入について、事業者等と研究を行う。
- ・市内のバスまちスポット、まち愛スポットの新規設置のための検討を行う。

基本目標3：生活を支える公共交通手段を「つくる」 おでかけを支える公共交通手段を地域が主体となって確保する

【目標指標】将来（10年後）の外出に不安を感じる人の割合

□全年代		
	現状値（平成29年度）市民アンケート結果	= 58%
	目標値（令和4年度）市民アンケート結果	= 58%未満
□65歳以上		
	現状値（平成29年度）市民アンケート結果	= 84%
	目標値（令和4年度）市民アンケート結果	= 84%未満

■施策1 「おでかけ」を守るための検討

①飯能市地域公共交通対策協議会の運営

- ・協議会及び分科会を必要に応じて開催する。
- ・**地域公共交通計画のH30～R4の評価を行い、全面的な改訂を実施する。**

②地域での交通手段を導入するための仕組みづくり

- ・支線バス路線の再編に向けて、地域住民及び事業者とともに検討を進める。
- ・「地域主体による生活交通の導入・確保の手引き」の内容の見直しを行う。
- ・公共交通空白地有償運送を運行するNPO法人に対して補助金を交付する。

③地域による主体的な運営組織づくり

- ・地域の現状・課題を市民アンケート等に基づき整理するとともに課題の解決に向けた取組案を示すことにより、公共交通の運営組織づくりを推進する。

■施策2 社会資源の活用の検討

①スクールバスの混乗

- ・奥武蔵小学校スクールバス一般住民の混乗制度について、教育委員会、地域住民の意向を踏まえて事業内容の見直しを行う。（現在、運休中）

②送迎バスの活用検討

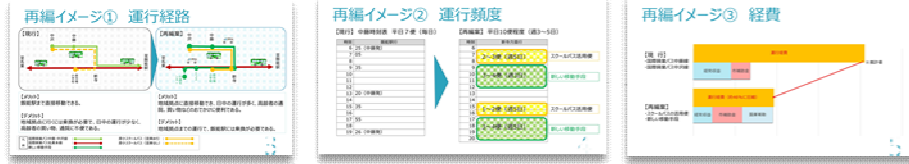
- ・飯能リハビリ館の移送サービスについて、既存バス路線の再編にあわせて運行内容等の見直しを行う。
- ・その他市内の社会福祉法人等の送迎車両の活用について検討し、必要に応じて協議を進める。

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

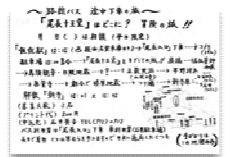
■施策1 バス路線の維持と継続的な見直し

- 国際興業バス4路線に対する補助金の交付
地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき、補助金を交付した。
補助金交付路線：国際興業バス 湯の沢線、名栗車庫線、中沢線、間野黒指線
- コロナ禍における市内交通事業者に対する支援金等の交付
市内施設の休業及び外出自粛の影響を受けた市内路線バス事業者及びタクシー事業者に対し、事業継続に向けた支援金を交付した。
- 支線路線の最適化の検討
支線路線である国際興業バス「中藤・中沢線」及び「間野黒指線」について、乗降データ等を分析し、国の「地域旅客運送サービス継続事業」を活用しながら、新しい移動手段を導入するための検討を行った。



■施策2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

- 「路線バス途中下車の旅」の実施
「お地藏様をたづねて」、「バスにゆられて国際興業バス名栗本線の終点「湯の沢」まで」など4事業
- 各エコツアーの実施
・路線バスの利用につながるツアー 15回開催（参加総数 延べ99人）
- 飯能市観光 MaaS のモバイルチケット「Meets! HANNO Pass2」の販売
西武バス(株)、国際興業(株)、イーグルバス(株)、ジョルダン(株)が連携し、市内をチケットレスで満喫できるモバイルチケット企画券「Meets! HANNO Pass2」を発売した。
- 「ムーンバレーパークおでかけバス」の販売
西武鉄道(株)、(株)ムーン物語、西武バス(株)、国際興業(株)、イーグルバス(株)が連携し、鉄道乗車券、路線バス乗車券、ムーンバレーパーク1デーパスがセットになった企画券を販売した。



■施策3 バス運行環境の整備

- 「危険バス停」の安全対策の実施
国際興業(株)、飯能警察署、市において、「危険バス停」として指定されたバス停16か所（うちA指定12か所）について安全対策を行った。

■施策4 需要に対応したバス路線の見直し

- 支線路線である飯能市乗合ワゴンの経路の見直し
実証運行の利用実績等を基に運行経路等を変更し、本格運行を開始した。



基本目標2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

■施策1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

- バスルートマップの配布
飯能市バスルートマップを市内の公共施設、商業施設等で配布した。
飯能市乗合ワゴンの案内リーフレットを広報紙に掲載するほか、沿線施設で配布している。



■施策2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施

- 「2021 はんのう市ノーマイカーデー」の実施
公共交通を維持・確保するため、また、コロナ禍で影響を受けている交通事業者を支援するため実施した。
期間：12/1～12/31 参加者：227人
- 「乗合ワゴンに乗ってみようキャンペーン」の実施
飯能市乗合ワゴンの利用PRを目的にノーマイカーデーにあわせて実施した。
内容：ノーマイカーデー参加証の提示により運賃無料



■施策3 マイバス意識の醸成

- 出前講座の実施
「路線バス途中下車の会」からの要望で実施した。
題目 路線バスの現状 実施日 10/21
会場 第二区地区行政センター 参加者 26人
- 地区検討会（精明・加治・加治東）の開催
飯能市乗合ワゴンの本格運行に向けた地区検討会を2回開催した。



- 第1回（書面） 利用実績等の確認、本格運行素案についての意見交換
- 第2回（書面） 修正案の確認、本格運行案の決定

検討会の開催後、「みんなで考えようおでかけの足通信」を発行（1回）

○地区検討会（原市場・南高麗）の開催

国際興業バス中藤・中沢線、間野黒指線の見直しに向けた地区検討会を3回開催した。

- 第1回（11月）市の公共交通の現状等の説明、運行素案の説明、意見交換
- 第2回（1月書面） 運行案の説明、新しい運行案についての意見提出
- 第3回（2月） 実証運行案の説明、今後の課題の整理

検討会の開催後、「みんなで考えようおでかけの足通信」を発行（3回）



■施策4 公共交通利用のための利便性の向上

- 高等学校等通学費補助制度の拡大
アンケート結果等を基に制度の見直しを行い、対象者、補助金額の拡大を行った。

基本目標3：生活を支える公共交通手段を「つくる」

■施策1 「おでかけ」を守るための検討

- 飯能市地域公共交通対策協議会(分科会)の開催
協議会（4回）及びバス事業者分科会（3回）を開催した。
各協議会の議事

- ・第14回（6/21）：飯能市生活交通確保維持改善計画の策定について ほか
- ・第15回（10/20）：飯能市乗合ワゴンの本格運行案について ほか
- ・第16回（12月書面）：飯能市地域公共交通計画の策定について
- ・第17回（3/1）：支線となるバス路線の再編について ほか

- 飯能市公共交通空白地有償運送支援事業補助金による支援
実施団体で加入する自動車保険について10/10補助するよう要綱改正をした。
交付実績：39.9万円

令和3年度「奥武蔵らくらく交通」実績（R3.4～R4.3） ※（ ）内前年比
運行回数：967回（+245回） 輸送人員：1,278人（+381人）
走行距離：6649.7km（+2071.1km）

■施策2 社会資源の活用の検討

- 「飯能リハビリ館送迎車両の空席を活用した住民移送事業」実証運行
市と医療法人徳明会の協定締結により、南高麗地区において路線バスの空白時間帯に限り、間野黒指～小室クリニック間において実証運行を引き続き行った。

令和3年度「飯能リハビリ館移送サービス」実績（R3.4～R4.3）
運行日数：毎週金曜日 50日（※2/11は運休） 登録者数：45名
利用者数：延べ126人（1日平均 2.52人）

- 飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」の本格運行開始
精明地区・加治地区において実証運行をしていた飯能市乗合ワゴンについて、本格運行を開始した。（R4.1.24～、西武ハイヤー(株)による4条乗合運行化）ワゴンの愛称を公募した結果、「おでかけむーま号」に決定した。
運行に関して、国の「地域内フィーダー系統維持確保補助金」を活用する。

飯能市乗合ワゴン実証運行実績（R3.3.10～R4.1.21）
・運行便数 1,016便
・利用者数 3,882人（便平均 **3.82人**）
・精明東 1,319人（便平均 **5.19人**）
・精明西 821人（便平均 **3.23人**）
・加治 1,742人（便平均 **3.43人**）



- スクールバスの活用
一般乗合路線で運行するスクールバスについて、交通事業者と市において系統の整理を行った。※一般貸切で運行している奥武蔵小学校スクールバスの一般住民の混乗制度については、新型コロナウイルス感染症の影響で混乗を休止中